

学校規模適正化・適正配置に係る保護者市民アンケート結果について

実施期間：2026 年 1 月 5 日(月)～30 日(金)

対 象：全市民の方

回 答 数：1002 件 (Web 回答 994 件、紙回答 8 件)

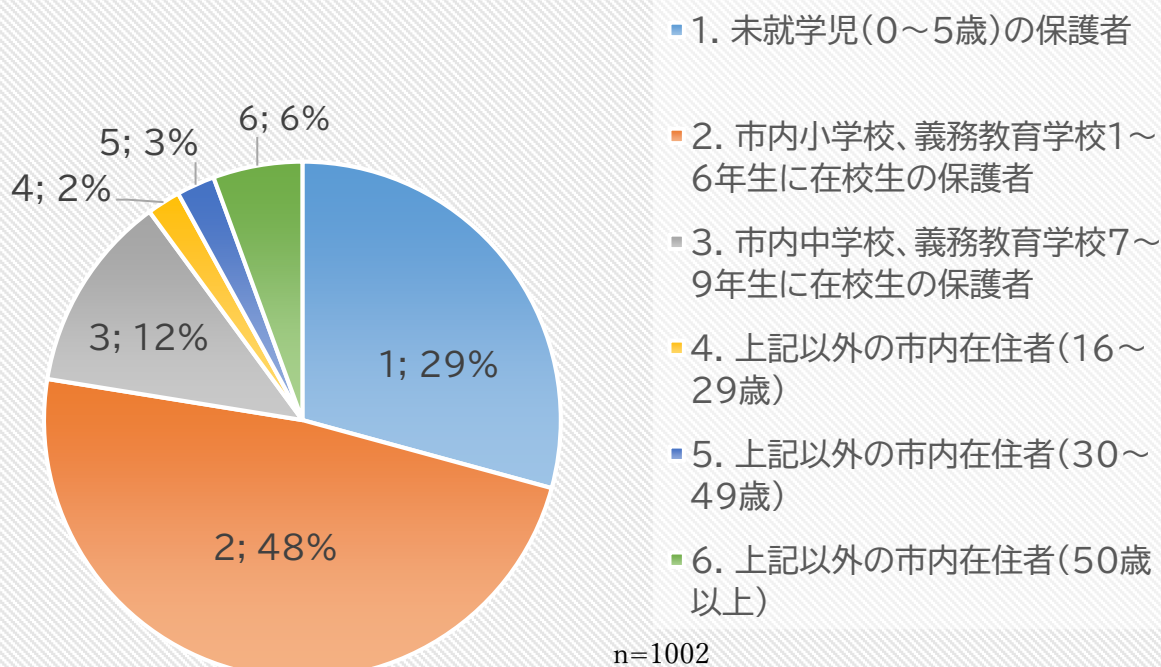
実施場所：Web アンケート

紙アンケート

(市役所本庁 1 階受付、別館 3 階、支所、市内 6 図書館)

問 1 あなたのことを教えてください。

問1、あなたのことを教えてください。

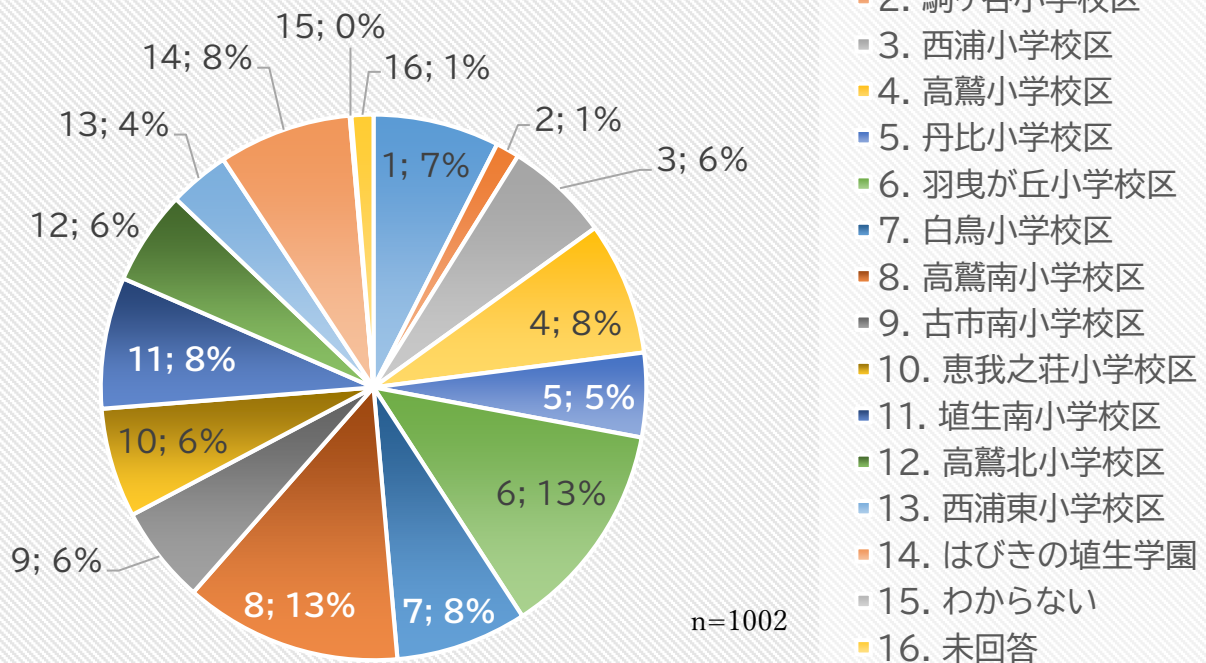


○1002 件という多数の回答をいただきました。内訳をみると、今後の学校規模適正化に関わる可能性のある未就学児や小学校の保護者の方、16～30 歳の方の回答が 79%を占めています。

○義務教育を終えられる中学生の保護者の方や今後も地域を支えていただく 30 歳以上の方も 21%と、あらゆる世代の方の回答を得られています。心よりお礼申し上げます。

問2 お住いの小学校区を教えてください。

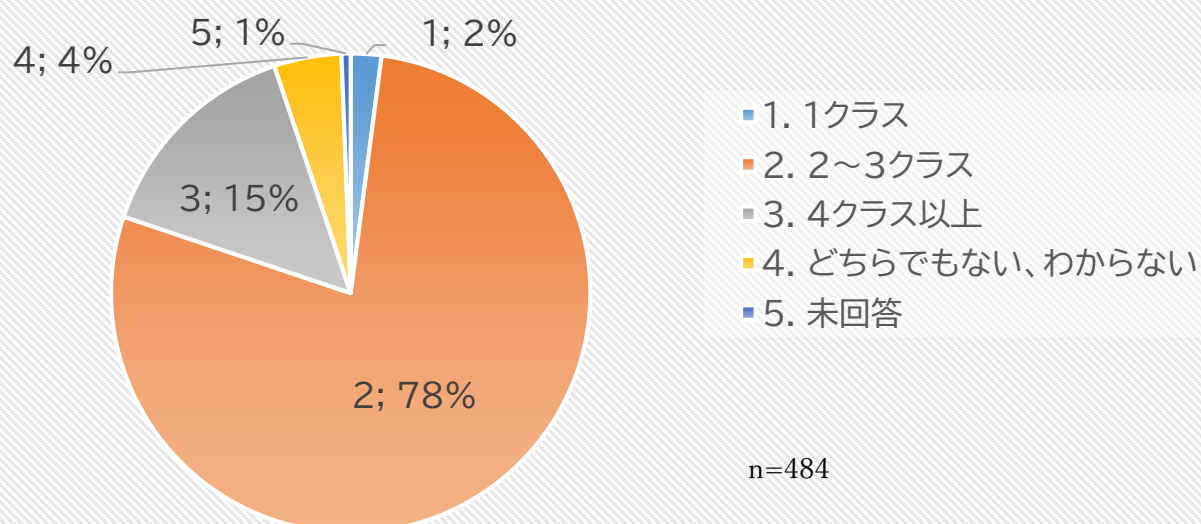
問2、お住いの小学校区を教えてください。



○高鷲南小学校区、羽曳が丘小学校区の方が13%と最も多く回答いただいておりますが、小学校区の児童生徒数などを考慮すると、どの校区も適正なバランスの回答をいただいていると考えます。

問3 (小学校の保護者のみ)お子さんが通われている学校について、1学年は何クラス程度がいいですか？

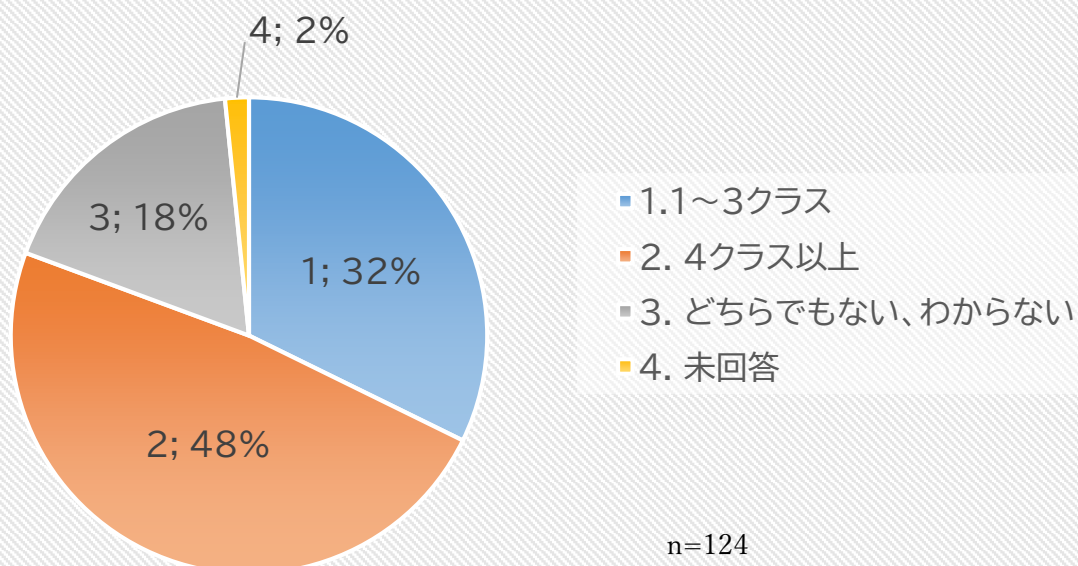
問3、(小学校の保護者のみ)お子さんが通われている学校について、1学年は何クラス程度がいいですか？



○小学校では、「2～3クラスがいい」が78%、中学校では「4クラス以上」と考えられている方が48%と最も多いです。これは令和7年2月に出された教育改革審議会答申に明記されている適正規模と同じ内容となります。

問4 (中学校の保護者のみ)お子さんが通われている学校について、1学年は何クラス程度がいいですか？

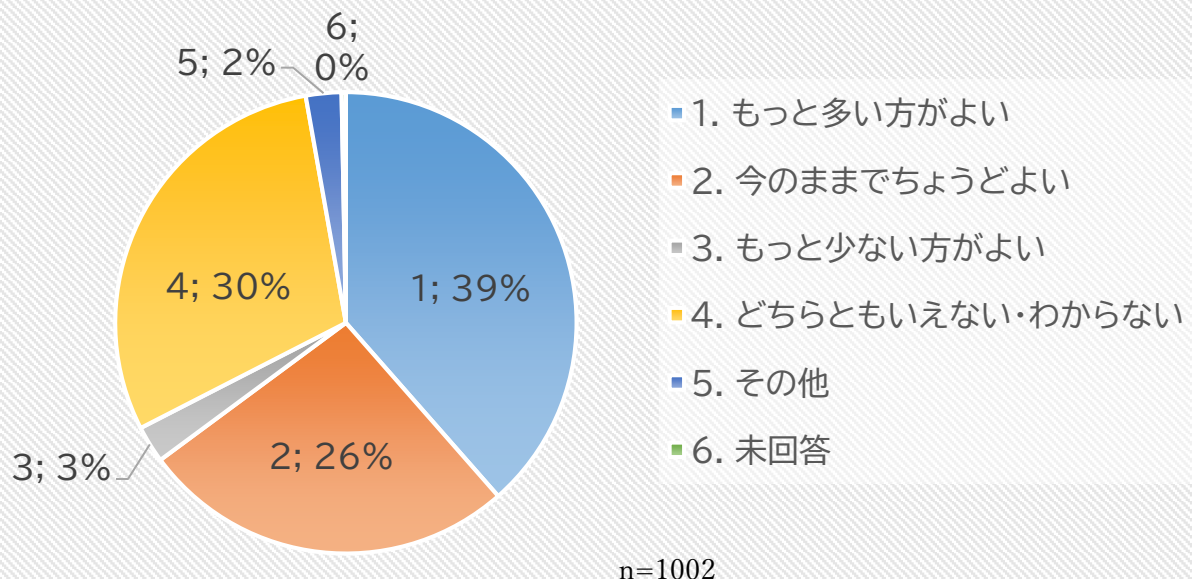
問4、(中学校の保護者のみ)お子さんが通われている学校について、1学年は何クラス程度がいいですか？



○中学校でも、教育改革審議会答申に明記されている「4クラス以上」と感じておられる方が、もっとも多くなっています。「1~3クラスがいい」と感じておられる方が32%と2番目に多いですが、これは現状で学年3クラス規模の中学校が多いことの表れだと考えられます。

問5 現在の羽曳野市の学校の児童生徒数について、どう感じますか？

問5、現在の羽曳野市の学校の児童生徒数について
どう感じますか？



- 「もっと多い方がよい」と感じておられる方が39%と最も多いです。これは小学校で1クラスの学年が増えていることや、1クラスの人数が少ないケースも見られることなど、児童生徒数の減少や学校の小規模化を実感されていることが大きいと思われます。また、説明資料による現状をご理解いただいたと考えております。
- 2番目に多いのが「どちらともいえない・わからない」と回答された方で30%です。こういった思いを持たれている方々に対しても、今後丁寧に説明や情報提供していく必要があると考えております。
- 「今のままでちょうどよい」と感じおられている方が26%と3番目に多いです。これは小学校では2クラス学年、中学校では3クラス以上が維持されている学校がまだ多いことや、特に中学校では、現状でクラス替えもある程度できていることなどが要因であると考えます。

問6 問5の理由についてお聞かせください

☆1002件の回答のうち、729件の記述がありました。

1. もっと多いほうがよい

社会性の育成や人間関係の固定化への不安、活気ある学校生活を求める声が多く寄せられています。

○「子どもが増えることで、限られた関係だけでなく、さまざまな友だちと関わる経験ができ、社会性を育てやすくなると考えています。少なすぎると和気あいあいとし過ぎて、もまれることもないまま成長させるのは、のちに不安を感じます。」

○「1クラスだと、人間関係が煮詰まりすぎると思う。1クラスは卒業までクラス替えがなく、あまりにも閉塞的で子どもの社会性や発達過程においても良くないから。閉塞的な環境下ではいじめなどの問題も起こりやすく、運動会やさまざまな行事も影響が出ると思う。」

○「部活動や行事で活気がでる。未来を担う子どもが多い方が、街が活性化するから。教育内容も充実させることができるから。」

○「中学校の部活が少なすぎて実感した。部活動やイベントがまともに行えなくなる可能性があり、教育の質の面でも心配だから。」

2. 今のままでちょうどよい

教員の目が行き届くことや、アットホームな環境、適度な規模感に満足している意見が目立ちます。

○「先生が一人ひとりの生徒を見てくれる機会が多くなる。多すぎるとクラス替えによるストレスが大きいのではないかなと思う。また先生の目が行き届きにくく、一人ひとりの個性を把握しづらいのでトラブルが起きやすいのではないかなとも思う。」

○「アットホームでいい。クラス替えは半数ずつなので、バランス的に丁度いい。はびきの埴生学園は小中一貫でクラス規模が保たれているため。」

○「3～4クラスが理想。少なすぎるとクラス分け出来ずいつも同じメンバーになる。あまり多いと、学校で子どもたちに目がゆき届かないだろうから。このくらいが多過ぎず少な過ぎずいいと思う。」

○「現状は2クラスですが、先生の手も行き届いていて子どもの意見もしっかり聞いてもらえてる様子なので、このままが理想だと思います。」

3. もうすこし少ないほうがよい

主に大規模校における教室の狭さや、教員の負担、一人ひとりへのきめ細かな対応を求める意見が見られます。

- 「ひとクラスあたりの児童の人数が多すぎて先生の手が回りきらないように感じられます。先生一人で勉強を教え授業の構成計画し、ひとりひとりの児童のメンタルヘルスや生活指導、保護者対応などをこなせないと思います。」
- 「◇◇◇学校は多すぎて、あまり授業も置いてきぼりのような気がします。机もギリギリまで後ろにあって狭く感じます。体育大会も保護者が多すぎてしんどいです。」
- 「教室にゆとりがなく、パンパン。息苦しさを感じます。特定の校区だけ生徒数が多いすぎる。」
- 「生徒数に対し先生も不足していると感じるから。」

4. 特に何も思わない・わからない

人数によるメリット、デメリットの両面を考慮する意見や、現状に不満がないとする声が特徴的です。

- 「大人数は、社会性が学べて、少人数は、きめ細かい対応できるから。多くても少なくても、充実した授業内容や行事、安心して子どもを預けられるかどうかだと思います。」
- 「学校によって、人数の偏りがあると思う。少人数の良さもあるが、小学校で少人数から中学校で大人数になることで、子どもたちが勉強以外のストレスを抱えることになるのではないかと心配。」
- 「小学校へまだ通っていないのでわからない。他市から引っ越して来たので児童数の多い学校も見てきたがどちらにもメリット、デメリットがあると感じたため。我が子に関しては人数の少ない現在の学校の方が手厚く（感じる）。」

5. その他

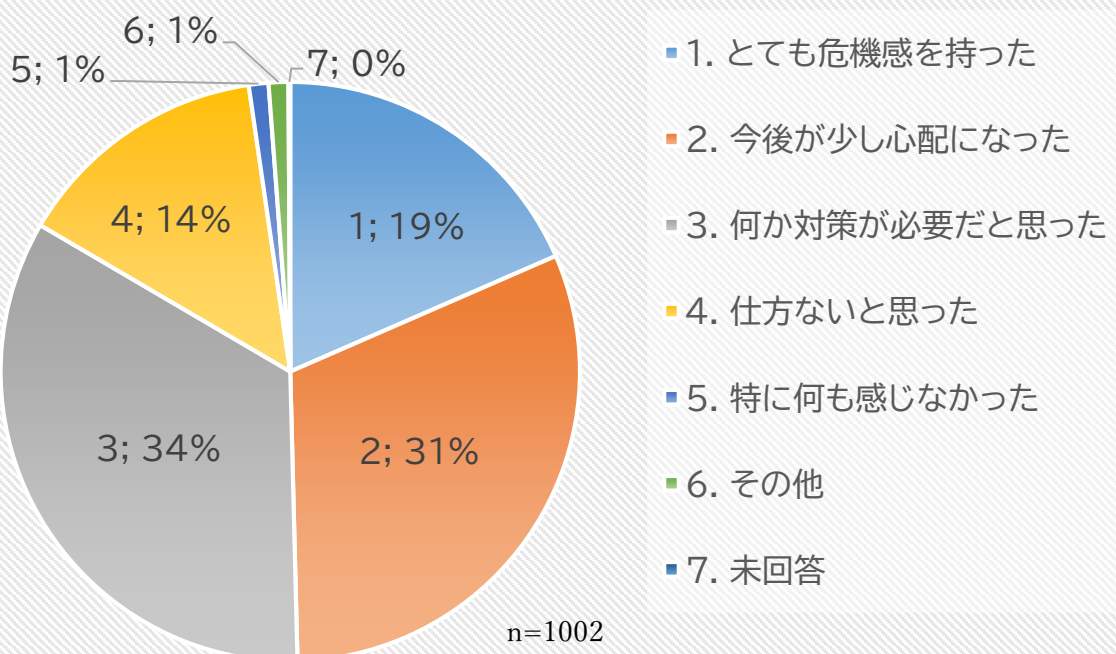
単なる人数の多寡ではなく、校区の見直しや少子化対策、教育予算のあり方についての提言が含まれています。

- 「児童数と言うより、平均的な生徒数になる様に学区の再編、学区の振り分けを見直した方がいい。先生が見れる人数となると1クラス20～30人が良い。学校によって偏り過ぎているので、統廃合の前に学区の見直しもありだと思う。」

- 「若手世代の家庭が減れば子どもが減るのは当然で、児童数云々の前に少子高齢化に着目して、安定した子どもの数を確保する策を考えるべきでは？ 現状子どもたちが楽しく健やかにのびのびと日々を暮らせる事に重点をおく方が意味がある。」
- 「市の施策として、定数を超える学級に加配教員を配置すれば、クラス替えができず子どもたちの人間関係が限定されるといった心配は解消されると思います。子どもの成長のために羽曳野市の教育予算を増やしてほしいです。」

問7 児童生徒数減少の現状や学校の小規模化について、どう思いましたか？

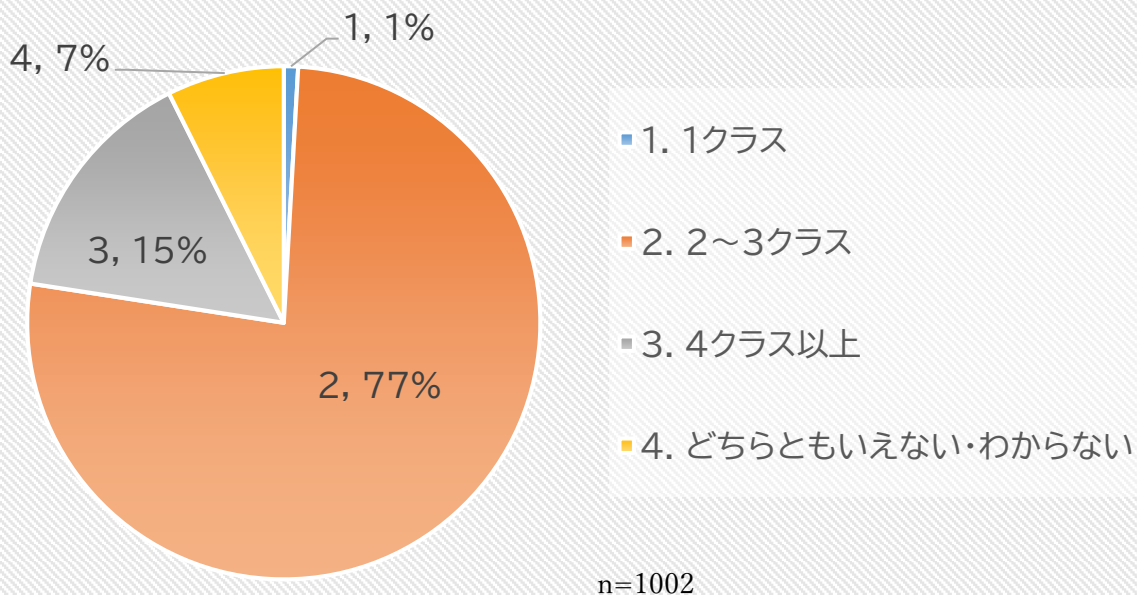
問7、児童生徒数減少の現状や学校の小規模化について、どう思いましたか？



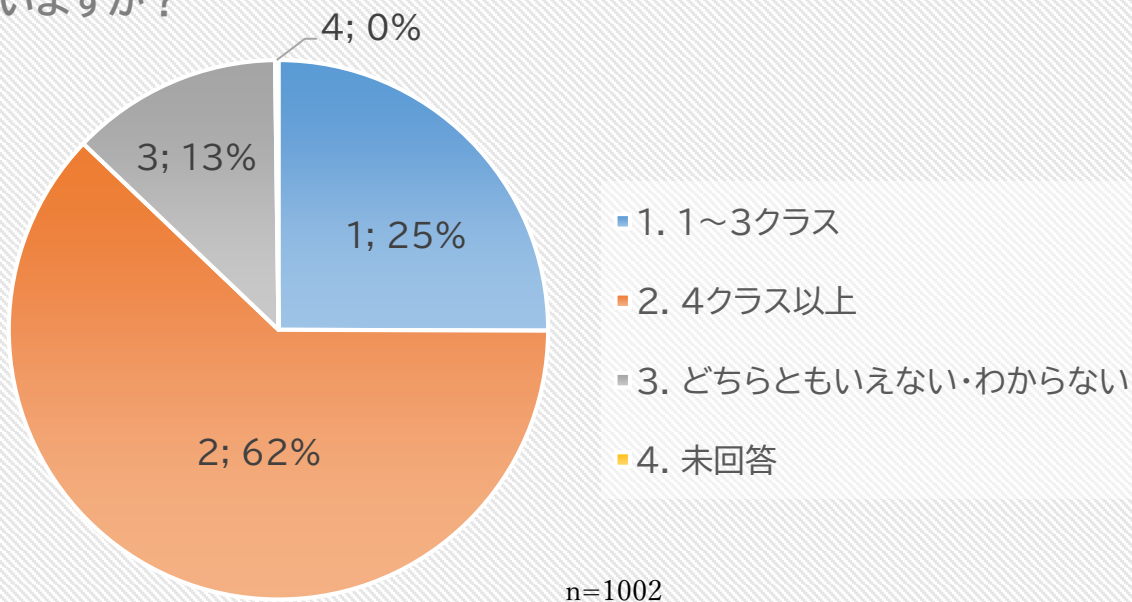
- 「とても危機感を持った」が19%、「今後が少し心配になった」が31%、「何か対策が必要だと思った」が34%と、合計 84%の方が、何らかの対策が必要だと感じておられます。児童生徒数の減少や学校の小規模化の現状を見ていただいたことで、子どもたちのために何かをしなければならない、という危機感を持っていたのではないかと考えます。
- 小学校区による回答傾向の差は、ほとんどありませんでした。

問 8・9 小(中)学校の1学年あたりは、何クラス程度がいいと思いますか？

問8、小学校の1学年あたりは、何クラス程度がいいと思いますか？



問9、中学校の1学年あたりは、何クラス程度がいいと思いますか？



○保護者の方に回答いただいた問3、4の質問を、資料を見ていただいた後で、市民の方全体にお聞きしています。小学校では、「2～3クラス」、中学校では「4クラス以上」と回答いただいた方が最も多いです。これは、令和7年2月の教育改革審議会答申に明記されている適正規模と適合しています。特に中学校では、問4よりも多い割合になっています。

問 10 問 8、9 に理由についてお聞かせください

問 8、9 と考えた理由については、1002 件の回答のうち、767 件の記述がありました。

1. クラス替えによる人間関係の固定化防止とトラブル回避について

最も多く見られた意見は、少人数による人間関係の固定化を懸念する声です。いじめやトラブルが発生した際の「逃げ場」として、複数のクラスが必要であると多くの方が考えておられます。

- 「トラブルがあった際にクラス分けが出来た方が良いから。人間関係に悩む時期でもあり、クラス替えがあったほうが良い」
- 「イジメの問題や先生との相性など、逃げ場がないのは子どもも親も辛いと思います。」
- 「1クラスだと人間関係が固定されてしまうので、3クラス程度はあった方がいいと思う。」

2. 多様な価値観への学びと社会性の育成について

集団の中で多様なタイプの人と関わることが、子どもの成長や社会性の向上に不可欠であるという意見も非常に多く寄せられています。

- 「世の中には色々な人間が居るんだということを学ぶには、たくさんの人との関わりが必要だと思うから」
- 「生徒数は多いほうが、多種多様な考えに触れて成長できる。」
- 「学校は子どもたちにとって、小さな社会なので、ある程度の人数がいた方が社会性を学べる」

3. 部活動の選択肢確保と活動の維持について

特に中学校において、生徒数の減少が部活動の選択肢をせまくしていることへの危機感が強く示されています。団体競技が成立しないことへの懸念も目立ちます。

- 「部活動の選択肢は多くしてあげたい。その分生徒数の確保が必要不可欠である。」
- 「団体競技の部活だと人数が少ないと練習もなかなか出来にくいので多い方がいいと思う」
- 「中学校では、教員不足で部活動がかなり少ないです。入りたいと言っていた部活動がなく、選択肢が少なすぎてかわいそうでした。」

4. きめ細やかな指導と教員の目が行き届く環境について

一方で、人数が多すぎることによる弊害を心配する声もあります。学習面や生活面で、先生の目が一人ひとりに届く適切な規模を求める意見です。

- 「1クラスあたりの人数を少なくすることで勉強もしっかりできると思う。人数が多いと全員に目を配るのは中々難しいと感じる。」
- 「多すぎると先生の目が届きにくくなりそう。自分が、小学生の時に2クラスで中学生の時に5クラスでちょうどよかった。」
- 「少なすぎるとコミュニケーション能力や社会性を育むことが難しくなりそう、多すぎると先生の目が届きにくくなりそう。」

5. 学校行事の充実について

運動会や文化祭などの学校行事において、一定の人数がいないと盛り上がり欠けるという指摘も複数見られます。

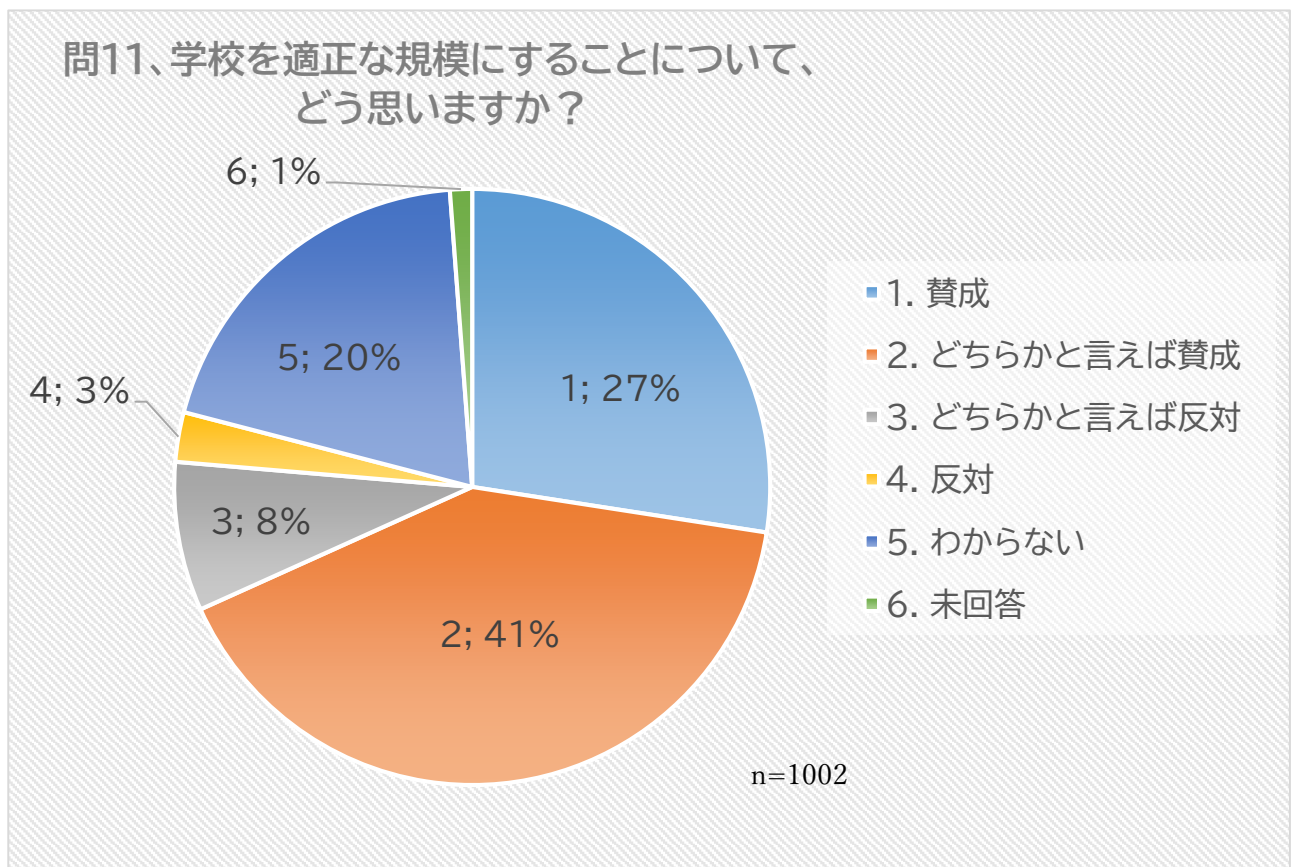
- 「ある程度の人数がいないとイベントごとが盛り上がらない。みんなでお楽しむ喜びを知ってほしい。」
- 「人数が多いほうが活気がある」
- 「多い方がイベントなどできることが多い」

6. 将来の進学や社会生活への準備について

小規模な環境で育つことで、高校進学後や社会に出た際の急激な環境変化に対応できるかを心配する意見です。

- 「社会に出れば色々な人がいるので準備期間として小中高で徐々に多様な人と関わる機会がある方がいいと思うから」
- 「高校になった時に対応していけるように人との関わりが増えて欲しい。」
- 「将来必要となる人間関係の構築に支障が出るため」

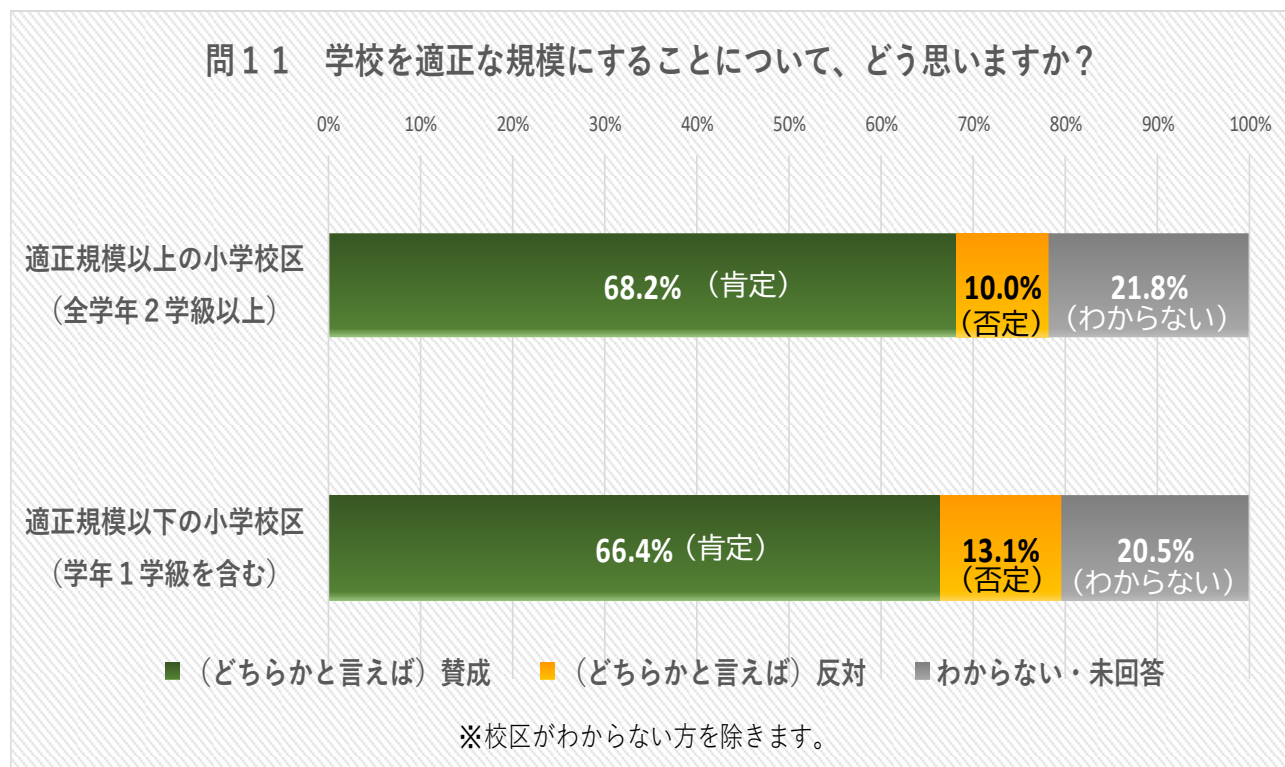
問 11 学校を適正な規模にすることについて、どう思いますか？



- 「賛成」が27%、「どちらかと言えば賛成」が41%と、68%の方が学校を適正規模にすることに対して肯定的な意見をいただきました。
- 「どちらかと言えば反対」が8%、「反対」が3%と否定的な意見が11%となり、「わからない」と回答された20%の方が否定的意見に回ったと仮定しても、合計31%となり、肯定的な意見が大きく上回りました。

◇次のグラフは、問11の回答を、1クラスの学年を有する適正規模以下の小学校区と、全学年2クラス以上あるの適正規模以上の小学校区に分けて、肯定的意見と否定的意見をまとめて集計したものです。

※緑色が「肯定的意見」、橙色が「否定的意見」、灰色が「わからない」です。



○現状で適正規模以上・以下の学校に関わらず、すべての小学校区で70%に近い肯定的なご意見をいただいています。これは、児童生徒数の減少により、学校が小規模化していることに対する改善が必要であるというご意見であると考えます。

問 12 問 11 の理由についてお聞かせください

☆1002 件の回答のうち、642 件の記述がありました。

□肯定的意見（賛成・どちらかといえば賛成）

1. 社会性や人間関係づくりについて

多様な人間関係の中で揉まれることが、子どもの将来や社会性の育成に不可欠であるという意見です。

- 「児童数が過度に少ない学校では、人間関係が固定化しやすく、学習や活動の幅が限られるため、学校を適正規模にすることで、健全な集団活動と多様な学びを保障する上で賛成です。」
- 「小集団に慣れていると、高校以上、社会に出たときのコミュニケーション能力が心配。」
- 「学校は社会の縮図と考えた時にはある程度の規模感が必要だと思うから」

2. 教育環境と活動（クラス替え・部活動）の充実について

一定の人数を確保することで、切磋琢磨できる環境や部活動の選択肢を維持すべきだという意見です。

- 「子どもたちの選択肢(部活動やクラス替えなど)を増やしてあげるのが得策だと思う」
- 「1 クラスですずっと同じ交友関係より、統合できる距離の学校は1つになる事でクラス数が増えていいと思うから」
- 「学校の規模が小さいとやれることが限られて、学校間で経験値に差が出ると思うから。」

3. 教職員の適正な配置と効率的な行政運営について

教員の負担軽減や、限られた予算・施設維持費を有効活用すべきだという意見です。

- 「学校数が減りその分の人員が適切に残った学校に配置されれば子ども、学校の負担も軽減され、より良い教育活動がおこなえると思います。」
- 「学校を維持するためには電気、水道代、耐震工事、改修工事などがそれぞれ多額になる。予算を編成するにあたり再編成や統合が必要だと考える。」
- 「学校運営コストの効率化、指導体制の適正化等が必要」

■否定的意見（反対・どちらかといえば反対）

1. 通学距離が長くなることと安全面への不安について

学校が遠くなることによる低学年の体力的な負担や、事故・不審者に対する懸念が最も多く挙げられています。

- 「特に小学校の再編は、登下校の距離が長くなり子どもの安心安全と身体的負担に直結する問題になるため反対です。」
- 「学校が遠くなれば、通学中の道中が不安。不審者や事故などトラブルに巻き込まれやすくなるのではと心配、なるべく自宅近くの学校に通ってほしい。」
- 「夏場の30分以上の登校時間は子どもにとって過酷です。統合により校区が広がる事に断固反対します」

2. 少人数教育のメリット(きめ細やかな指導)がなくなる不安について

少人数だからこそ実現できている、先生の目が届きやすい教育環境が失われることへの懸念です。

- 「少人数だからこそサポートが行き届くというメリットもあるので、ただ数を増やせば良いという考えなら慎重に考えるべきだと思います。」
- 「少人数=不適性ではなく、少人数にメリットを感じる子どもや保護者の意見も取り入れた方が良い」

3. 学校がなくなることへの地域的な不安について

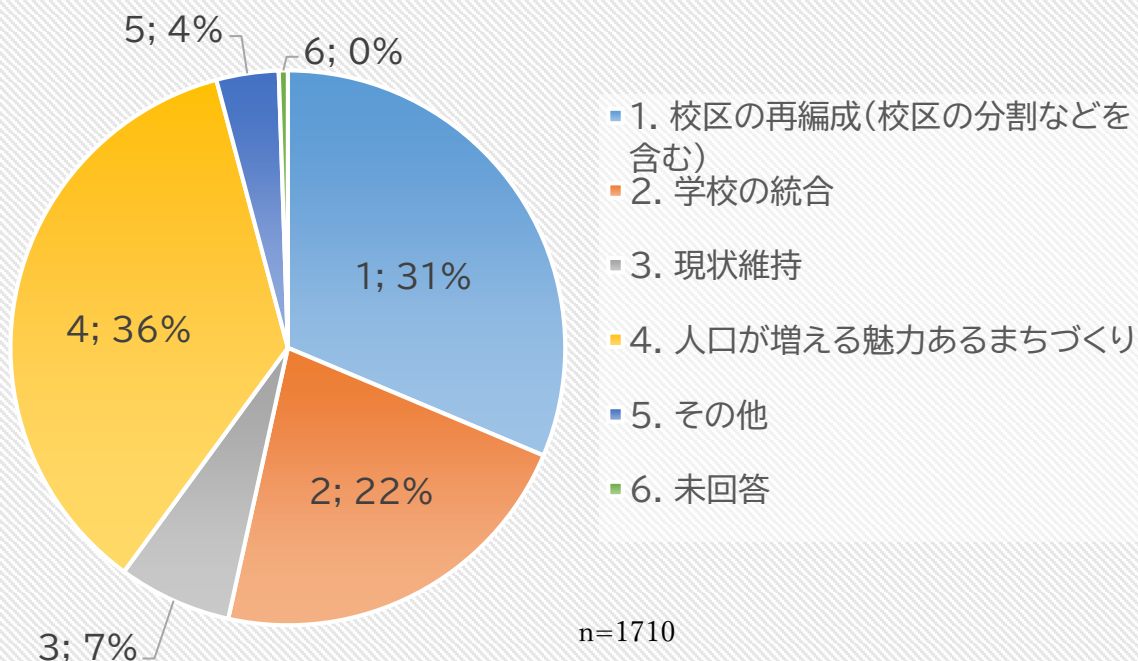
学校がなくなることによって地域の活気が失われ、子育て世代が住みにくい街になるという危惧です。

- 「学校が無くなった校区の児童の通学の安全は誰が保障してくれるのか。またそのような子育てに向かない街に、若い世代が居着くと本気で考えているのか。」
- 「廃校が出た地域には子育て世代が住みにくくなり、子どもの声が聞こえない寂しい地域ができてしまいます。」

- 肯定的な意見については、社会性の育成の重要性や人間関係の固定化への不安、教員数を適正に配置すること、予算の有効活用などに対して多くの声をいただいています。
- 否定的な意見については、主に通学路の安全性についての不安が大きく、少人数でのきめ細やかな指導のメリットを重要視される声や、学校がない地域の将来に危惧する声をいただいております。
- どの意見も子どもたちにとって大切な視点であり、これらの意見を踏まえて、今後の基本方針・基本計画および実施計画を作成していきたいと考えております。

問 1 3 学校を適正な規模にするためには、どんな方法がいいと思いますか？（複数回答）

問13、学校を適正な規模にするためには、どんな方法がいいと思いますか？（複数回答可）



○一番多いのが、「人口が増える魅力あるまちづくり」となっており、児童生徒数だけでなく、羽曳野市に人が集まるような魅力あるまちづくりを望まれていることがわかります。

○学校規模適正化・適正配置について、31%の方が「校区再編成」を、22%の方が「学校の統合」を対策として考えていただいています。

問 14 学校を適正な規模にしていくことについて、 何かご意見があればお聞かせください。

☆1002 件の回答のうち、569 件の記述がありました。

1. 社会性の育成と多様な人間関係づくりについて

適正規模にすることで、多くの子どもたちと触れ合い、集団の中での社会性や多様な価値観を育むことができると期待されています。

- 「小中一貫にすることで、1 クラスの人数の規模をより大きく確保でき、上級生は見られる感覚を身につけ、下級生は色んな年代の子どもと触れ合えることで価値観を育めると考える。」
- 「こども同士でよいことも悪いことも、たくさんの人間関係を経験し、教師も学んだり、相談したりする時間が取れる(規模の適正化とも少しは関係あるやろか)、豊かな学びのある教育現場になってほしい。」
- 「少人数のための学校ではなく、適正規模で運営をして欲しいです」
- 「近隣の学校を早く統合して1 学年最低3 クラス以上にしてほしい。
1 クラスで逃げ場がない環境を早く変えてほしい。」

2. 通学路の安全性への不安について

統合により通学距離が遠くなることと、それに伴う通学中の事故への不安の声があります。

- 「高鷲北小と高鷲小が統合した場合、小学生が大和高田線の横断をすることになり、道路の混雑や交通渋滞、急ぐ車の無理な運転などによる死亡事故のリスクが増大する可能性がある。」
- 「羽曳野市は側溝(水路)が多いですね? こどもが小学1 年生の頃、一度車を避けた時、荷物が重かったみたいで、よろけて側溝に落ちたことがあります。ふたはできないのでしょうか?」
- 「恵我之荘周辺は道路が狭く歩道がない道がほとんどなので大人が通る時でも怖いです。」
- 「通学路の道が劣化しガタガタで危ない」

3. 教育体制の強化と効率的な教員配置について

統合によって教員数に余裕を持たせ、専門的な授業やきめ細やかな指導体制を整えるべきだという意見です。

- 「とりあえず統廃合して、効率的に先生を配置して、しっかりとした授業をしてほしいです。」
- 「統合によって人員配置に余裕を生み出し、加配が必要な子どもたちにもっと合理的配慮をしてあげて欲しい」

- 「希望する生徒が学校内で十分な学習機会を得られるよう、学力別のクラス編成や専門的な指導体制を整えることは、公教育として本来検討されるべきだと考えます。」
- 「分散されている現状を統合案で見直す事によりコストダウンに繋げ、その分は子どもたちの教育(学力 UP や部活動の充実)に回す。先生方の負担軽減にも繋げて欲しい。」

4. 持続可能なまちづくりと将来を見据えた合理化について

少子化が避けられない中、学校運営の効率化と将来の子どもたちのための環境整備を求める意見です。

- 「人口を増やすことが出来れば一番良いと思います。しかしそれを達成することは困難です。従って学校の統合を行い、運用面の効率化すべきだと思います」
- 「学校を適正な規模にすることは当然ですが、地域による人口の偏りを避ける街づくりも大切だと思います。」
- 「学校規模適正化については、どのような決断をしても賛否はあると思います。でもよりよい教育環境にしてあげられるよう、早急に取り組んでいただきたいと思います。」

5. 毎日の荷物の重さや猛暑時の児童の身体負担への不安について

重い荷物を背負っての長距離通学や、近年の異常な暑さによる熱中症への不安の声があります。

- 「すでに荷物は重すぎる。この重さは身体的に何か影響が出てもおかしくないレベルだと思います。一度大人が同じ重さの荷物を持って40～50分歩き続けてみてください。特に夏は危険を感じるレベルです。」
- 「通学距離は絶対に重きをおいて考えてほしい。小学校一年生基準で。ランドセル背負って、教科書は毎日持ち帰れ、とか言われたり....」
- 「心配は的中し、登下校の途中で熱中症になり帰宅後フラフラになり倒れた事もある、学校側は出来る限りの協力をしてはいますが、市が動いてくれないとこれ以上は学校側も動けないと思います。」

6. 活気ある部活動や学校行事の実現について

一定の人数を確保することで、小規模校では維持が困難な部活動や行事の活性化を望む声があります。

- 「部活動のバリエーションを確保する。野球部をつくる。」
- 「統合によって部活動の選択肢を増やしてほしい」

- 「中学生の部活動も人数が足りず試合ができないなどの現状があるので、適正な規模での活動をさせてあげたい」

7. 学校施設の改善について

統合を機に、学校施設の改善を期待する声が見られます。

- 「廃校となった区域のお子さんは登下校に保護者が必要になるため、学校の建て直しから考えて欲しい。また、古くなっているため、いずれは建て替えが必要であると考える。」
- 「統合して綺麗な校舎で質の良い教育をしてほしいです。」
- 「屋内型プール施設の整備をすること！！ 小学校のプール使えないのだから当然整備してください。」

8. 小規模校のメリットと地域への愛着について

少人数ならではの「きめ細かな指導」や、地域の拠点としての学校を失うことへの反対意見です。

- 「子どもの人数が減るのはチャンス。今まで人数が多くてひとりひとりと向き合う余裕や時間がなかった分、子どもひとりひとりにきめ細やかな対応ができるようになります。」
- 「卒業した学校がなくなるのは人生を否定された気持ちです。できるだけ残してやりたい。」
- 「地域の方々のあたたかい協力による行事なども、小規模ゆえに、そのあったかさがたくさんありました。150年以上の歴史ゆえにお父さんおじいちゃんも同じ小学校で学ぶ、そんな地域に愛されている小学校だと思います。その小学校がなくなる、と思うと残念です。」

9. 通学支援（バス・自転車）について

統合を進めるのであれば、スクールバスの導入や自転車通学の許可などの対策を求める声があります。

- 「小学校は遠い校区の子たちにはアメリカのようにスクールバスを走らせるなど通学についても対策は必要だと思う。」
- 「自転車通学をもっと認めてほしい。」
- 「学校の統廃合や校区編成をすれば、通学の問題があるので、遠い地域は市の通学バスを運行するなど、子どもが毎日安全に登下校できるような対策をしてほしいです。」
- 「中学生であれば自転車通学を選択肢に入れられますが、小学生であればバスまたはスクールバスでの通学が必要かと思います。」

10. 少子化対策・魅力ある街づくりについて

学校を減らす前に、子育て世代が住みたくなるような市政（給食費無償化、公園整備など）を優先すべきだという意見です。

- 「少子化に歯止めをかける対策を取る方が先決ではありませんか？子どもたちに皺寄せをくらわせることは間違っていると思います。統合などしてしまうと…子どもやその親に負担ばかりかけさせる政策を考える方が間違っているという認識を再度持ってほしいです。」
- 「市として出来るだけの若い世代の人口増加対策をするのが先だと思います。効率の悪い施設をどんどん閉鎖していくだけでは、余計に魅力のない街になっていくと思います。」
- 「他の市では給食費の無償化や塾支援制度などいろいろな制度がある。羽曳野市でも子育て世代への制度を増やす働きをしてほしい。そうすると自然と羽曳野市で子育てしようとする人口が増えて行くと思う。」

- 他の記述の部分も含めて、たいへん多くのご意見をいただきました。その中には、学校の小規模化に対して改善が必要であるということ、子どもたちの成長にとっての一定規模の集団が必要であるというご意見、学校を適正規模化して学校数を絞ることで教員数や予算面での効率化ができるというご意見、行事などが活性化されるなど、市域全体を見据えた肯定的な意見を多くいただきました。
- それに対して、通学の距離や安全性への不安の声、少人数であることのメリットや地域への愛着、少人数であることのメリットを優先されている声など、地域の実情による環境変化に対する不安の声もありました。
- また、人口を増やすことやその他、さまざまな魅力あるまちづくりへの施策の必要性などもご意見としていただきました。
- 学校規模適正化・適正配置にとって大切なことは、特定地域の児童生徒数の増減や特性だけを見るのではなく、市域全体のバランスや、ここ10年間くらいの短期的なことではなく、向こう数十年先までの長期的な展望に立って、「市域全体の持続可能なまちづくり」を念頭に置いて考えることだと考えています。
- また校種を問わず、あらゆる発達段階の子どもたちが、ともに生活する中で、お互いの立場を理解し、支えあいながら、ともに成長する環境を提供することが大切だと考えます。
- いただいた貴重なご意見を真摯に受け止めて、不安に感じておられることに対しては、解消に向けた工夫を考えながら、今後の学校規模適正化・適正配置の計画に活かしてまいりたいと考えております。

市民のみなさまから、忌憚のないご意見をいただきました。ここに掲載しきれなかったご意見も含めて、今後の取組みの参考にさせていただきたいと考えております。今回の市民アンケートには、本当に多くのご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

また同時に実施しました児童生徒アンケート（小・義務５年生～中学３年生・義務９年生対象）の集計結果もお示ししていますが、子どもたちなりに考え、さまざまな意見を寄せてくれました。

現在の羽曳野市では、児童生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が進行しています。小規模化している学校では、少人数のメリットを最大限に活かしながら、特色ある取組みにより成果を上げています。ただ、この傾向が続き、もっと多くの学校で小規模化が進んでいくことで、物理的な課題は如何ともしがたくなります。

羽曳野市の宝である子どもたちが義務教育を終了し、激動の社会の中で自分らしく生き活きと生きていくためには、他の意見を受け止めながら、自分の思いを適切に伝えることのできるコミュニケーション力や、多様な価値観の人と相互理解しながら協働できる社会性を育成することが大切です。そのためには、いくつもの新しい出会いを通して、切磋琢磨する中で、仲間とつながる経験が可能な一定規模の集団の中で学校生活を送ることができる環境を提供することが必要です。

また、適正規模化によって、関わり方や指導内容などの教育の質が落ちることはあってはならないことです。学校規模に関わらず、子どもたち一人ひとりに向き合いながら、質の高い教育活動を提供していくことが、羽曳野市の子どもたちにとって必要であると考えます。

学校の規模適正化・適正配置については、今後の児童生徒数の推計も見ながら、適正化実施後の長期的な視野に立ち、「市域全体の持続可能まちづくり」を念頭において進める必要があります。羽曳野市教育委員会だけでなく、各部局とも連携し、多角的な視点で検討しながら、数年かけて基本方針・基本計画から具体的な実施計画をまとめていく予定です。その要所で、市民のみなさまに情報提供や説明をさせていただき、ご意見もいただく機会を設けるなど、丁寧に進めてまいりたいと考えております。

その際には、ご理解とご協力いただきますようお願いいたします。

多くの貴重なご意見を賜り、心よりお礼申し上げます。

令和８年８月１日
羽曳野市教育委員会